

## 入賞

### ライフライン

ライフラインとは、日常生活に必要な社会インフラのことで、私たちが生活していく上でなくてはならない物の事をいいます。それは主に電気、ガス、水道、通信、交通が挙げられます。この中のどれか一つでも欠けている生活は少し前までの私には考えられませんでした。

二〇一九年十月十二日台風十九号が福島県をおそいました。令和元年東日本台風です。

その日は、朝から雨と風が強く、ケイタイの警報が鳴りやみませんでした。私の住む家の近くには、川があります。川はいつもより水位が高く、黒くにごった水が今にもあふれ出しそうな勢いで流れていました。その夜はマンションに住む祖母の家に避難することにしました。テレビのニュースで近くの川が氾濫したことを知り私は、家が流されていないか

と心配になりました。次の日の朝、父親から

「家が大変なことになってるぞ。」

と連絡がきて急いで戻ると、川から流れてきたゴミや木の枝、漂流物が道路や庭先に散乱し、家の中は泥だらけになっていました。ニュースでしか見たことのない光景が目の前にあり私は頭が真っ白になりました。家の中の泥を洗い流そうと蛇口をひねると水が出ません。台風の被害で水道も止まってしまった様です。幸い母親がお風呂に水をためていたのと水の出る地域の方から水を頂き、家の中の泥をかき出し、掃除をすることができました。しかし大変だったのはその後でした。食事をする時は水があまり使えないので洗い物をできるだけ少なくするために紙皿を使ったり、お皿の上にラップをし汚さないように気を使いました。またトイレを流すのにも水が

いわき市立平第三中学校 二年 百崎ももざき 蓮人れんと

必要でした。本来は飲み水に使えるはずの水をトイレに使うたびに、もったいないと思いました。お風呂について水害のあった次の日は、とても暑く掃除をしていると滝のように汗をかきましたが、水がとまっているいるためシャワーで流すことができませんでした。こんなにも生活の中で水を使うことを意識した事はありませんでした。

「水が出るかも」

と言われ、半信半疑で蛇口をひねると、少しではあるけれど水が出ました。水が出た時はとても感動し、幼い頃水遊びで砂山のトンネルを水が流れてきた時の興奮を思い出しました。

後で話を聞いたら地域に水を送るポンプも浸水被害にあい、それを直すために多くの人たちが休まず復旧作業をして下さったことを知り、感謝の気持ちと水に対する興味が大きくなりました。

蛇口をひねれば水が出るのが当たり前だと思っていた私は、この水害での経験は強く心に刻まれ、改めて水の大切さ、それを支える人たちの存在に気づかされました。

ライフラインを直訳すると命綱です。まさに命に関わるのが「水」です。私は今、蛇口をひねるたびに「ありがとう」という気持ちになります。

今年の夏は、コロナウイルスの影響で海水浴ができません。しかし、八月に入り連日の猛暑となり、私の家では、少しでも涼しくなろうと、庭で水遊びをしています。弟は、プールに水をため気持ち良さをしているに入っています。庭の植物も、暑さに負け疲れている時に水をあげると元気を取り戻します。生活に欠かせない水は、人を楽しませてくれる水となり、今日も、私たちの近くにあります。